

# ファイナル課題曲演奏の 山下晋先生のご紹介

10月9日ファイナル課題曲の録音が鹿児島・みやまコンセールにて、鹿児島大学教授の山下晋先生の演奏により行われました。山下先生はショパンやバッハを演奏会でよくお弾きになられるとのことで、それはとても素晴らしい演奏で音に丸みがあり、デクレッシェンドで終わる曲などはどこに音が行ってしまったのだろうと探すほどのものでした。そして堂々とされた演奏で、例えばある小学生の課題曲の二拍子のリズムの強拍には、まるで針を刺すかのように鋭いタッチで曲全体にその刻みの一貫性があり、山下先生の集中力の高さと一切迷いのない演奏を感じ、まさに素晴らしい芸術作品になっています。いつも課題曲を演奏される先生方が口をそろえるように「子供さんの曲を弾くのは難しい」とおっしゃいますが、山下先生もしかりで、「少ない音でいかに音楽を表現するかに悩み、考え抜きました」、そして胸に手を当てられて「童心の気持ちになり弾くことの大切さを意識しました」とおっしゃったことがとても印象に残りました。

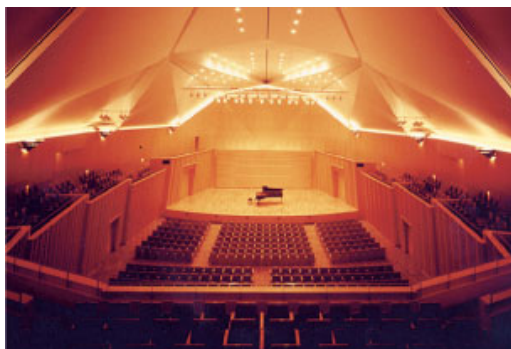
「課題曲演奏に取り組む過程でとても勉強になりました」ともおっしゃって頂き、録音当日まで大変な練習量と曲づくりに悩まれご尽力頂き感謝の念に堪えません。



鹿児島大学教授 山下 晋先生

録音当日立ち会われた調律の方も、子供さんの曲は音符がまだ少ないため音と音の間に伸びがあつて、その伸びの間に音が狂っていないか耳をそばだてているとおっしゃっていました。ある程度難度が高くなってくると、音と音の隙間が詰まってくるため、そういったチェックはできないそうです。このことから、子供さんの曲というのは音の伸びがあり、そこをどう演奏するかが審査評価のひとつとなります。具体的に言えば、伸びのある音をつくるには、打鍵の度に脱力するという技術が求められます。テクニックとして易しい曲であるが故に音の伸びを作るための脱力法は、幼児教育からすでに始まっていると言えるでしょう。山下先生の演奏から大変多くのことを学ばせて頂きました。

グレンツェンピアノ研究会主宰 青木律子



みやまコンセール

770席の主ホールは、音響学の高い技術を取り入れてシューボックスを基本とした木の葉型の平面と船底型の天井を採用し、立体感のある豊かな響きを味わうことができます。